

# 高校教員の視点

## 大学の教育力の高さは 何で評価する？

日本の「教育充実度」には、高校教員の評判調査が反映されている。THEランキングに関心を寄せる高校教員は大学の教育力をいったい何で判断しているのか？



	Q.大学の教育力の高さを何で評価しているか？	Q.グローバル人材の育成については何で評価しているか？	Q.生徒に積極的に勧めたい大学は？	Q.「日本大学ランキング2020」を見て注目した大学は？
<p>鳥取県・私立 <b>青翔開智 中学校・高校</b> 織田澤博樹校長</p>	<p>本校の場合、探究学習を通じて卒業論文を書かせており、それが進路選択につながっている、生徒は「興味がある学問分野を自分のスタイルで引き続き学ぶことができる大学」「興味がある分野の教育力・研究力が高く、将来へ向けた進学・就職のフォローが充実している大学」を選んでいる。このようなプロセスで生徒が自信を持って選んだ大学は、「その生徒にとって」は価値のある大学であり、その分野において優れた成果・教育力があると考えている。</p>	<p>学生や教員の多様性の高さ。テンブル大ジャパンキャンパスは、教員と学生の出身国の多様性が高く、2019年には<b>昭和女子大</b>と施設の共同利用を始めたこと聞いた。この2大学の相互交流によるダイバーシティ推進に期待している。教育充実度が高く国際性も高い大学として<b>国際教養大、国際基督教大、立命館アジア太平洋大</b>が有名だが、最近では<b>神田外語大</b>の伸びも目覚ましい。理工系では<b>会津大</b>が両方高く、ITと国際性の分野で突き抜けていると聞く。</p>	<p>デザイン思考をベースとした探究学習を学んだ本校の生徒がそれをより深められる進学先を勧めたい。例えば創造的思考力を実社会に応用しイノベーションを起こす人材育成をしている<b>武蔵野美術大造形構想学部</b>や、全学的にデザイン思考に取り組んでいくと発信している<b>香川大</b>など。<b>情報経営イノベーション専門職大</b>は100社以上の企業とコラボしながらCTと英語を運用し起業家教育の実践と起業サポートがあると聞いた。起業家をめざす生徒に勧めたい。海外ではオーストラリアの<b>クィーンズランド工科大</b>。「実社会における実学(real)」をコンセプトにeスポーツコースをいち早く開設、理系でも男子より女子が多い。創立50年以内の世界ランキングでは24位でお勧めだ。</p>	<p>本校では進路支援にTHEランキングの「世界版」「日本版」を活用している。日本版では教育充実度、国際性を重視している。地域別が使いやすい。<b>長岡技術科学大</b>や<b>豊橋技術科学大</b>は就職のよさからも勧め。今年本校から初の海外進学が出た。共に世界版で100位以内のトップ大学で、オーストラリアの<b>モナシュ大</b>と<b>ニューサウスウェールズ大</b>だ。鳥取からは東京に行くより行きやすい外国がたくさんある。ランキングを活用して海外の大学情報も提供する中、生徒は国内外こだわらず自分に合った大学を選びつつある。</p>
<p>広島県・県立 <b>呉三津田高校</b> 進路指導主任 上谷伸二先生</p>	<p>さまざまな大学情報誌やランキングのほか、卒業生の話も参考にして評価している。彼らは長期休暇に訪ねて来るほか、SNSを通じて、大学の様子をまめに知らせてくれる。また、<b>東京大、京都市大、九州大</b>への大学見学会も行っている。大学の中身をよく調べて選ぶよう指導した結果、本校の進学先は多様で幅広く、6〜7割は県外だ。進路指導部だけで大学の情報収集やアドバイスをを行うのではなく、教員全員で進路指導にあたり、情報を共有している。</p>	<p>主に、研究力の高さと大学(大学院)卒業後の進路実績を重視している。研究力を重視しているのは、これからのグローバル社会において、生徒がその興味・関心を追究することが大切だと思うから。もちろん、卒業生からの直接的な情報も生徒に進路指導する際に大いに参考している。大学名だけで判断せず、自分の将来像をイメージし、高校生のときから継続して追究していきたいテーマを発見し、研究していく、そういった一連の力を付けられるかが重要。そういう意味ではSGUトップ型の大学は生徒に勧めたい大学が多い。</p>	<p>本校は、WWLコンソーシアム構築支援事業<sup>*3</sup>連携校として「グローバル社会のリーダーを育成する」という教育目標を掲げている。<b>東京大</b>や<b>京都大</b>はもちろんだが、国際性という点で<b>東京外国語大</b>や<b>都留文科大</b>などにも注目している。特に都留文科大は、文学部国際教育学科で、文系学部では国内初のIB教員育成を始めたこと聞く。また、旧帝大やブロック大はもちろん、本校は例年理系生徒(特に工学系)が多く、大学卒業後の就職・進路実績が充実している<b>九州工業大</b>も勧めている。</p>	<p>現役学生の調査結果を指標項目に入れた教育充実度には注目している。特に高順位を安定的に保つ<b>国際教養大、筑波大</b>、順位を上げた<b>立命館アジア太平洋大</b>などにも注目している。実際に、筑波大に進学した卒業生からは充実した大学生活を送っていること聞く。今回、国際性が高まったことで、総合1位になった<b>東北大</b>の「世界と地域に開かれた大学」の理念におけるさまざまな取り組みに共感し、毎年進学希望者がいる。また、本校からの進学者が多い<b>広島大</b>も「世界トップ100」を目指す取り組みは注目に値するものが多く、高大接続という点でも注目している。</p>
<p>東京都・私立 <b>三田国際学園 中学校・高校</b> 学習進路指導部副部長 城野大輔先生</p>	<p>教育・研究の設備、環境がオープンかどうかを重視している。グローバル社会で活躍し、オープンイノベーションを起こすような人材を育成するためには、<b>学問の垣根を越えた議論ができる環境、異文化融合のオープンな学びの場が重要</b>だからだ。物理的にオープンだけでなく、オープンな議論を促すデザインの工夫があるかどうか。そこにこそ、大学の教育ポリシーが現れ、学生の能力伸長への力の入れ具合がわかる。生徒がオープンキャンパスで見る観点にも入れているぐらいだ。</p>	<p>留学だけでなく日本にいても、<b>グローバル社会のリアルに触れる体験を創出する大学は評価</b>する。4年間でどれだけグローバル社会の現場にコミットできる経験ができるかどうか。寮ひとつとっても、海外では自国の学生と留学生の混在型が一般的だが、日本は別々の場合が多い。授業以外の生活の場での多文化経験や交流が大切なことは、自身の留学経験からも痛感している。例えば、<b>桜美林大</b>は国際系があり、新設の新宿キャンパスはオープンな環境で社会実装PJなどが行われており、魅力的。</p>	<p>学生の興味関心を広げられるような大学を勧めたい。本校では「発想の自由人」の育成をめざし、中1から探究ベース、メタ認知重視の21世紀型スキルを養った結果、生徒は自分の興味関心に向き合えるようになった。しかしそれに固執しすぎると進路選択の視野が狭くなる。<b>進路指導では文理の枠にとらわれず、視野を横に広げるリベラルアーツの観点でも進路を考えるようにアドバイス</b>している。文理の枠を超えたオープンな学びの場、多様な人間が集まる学びの場やカルチャーがあるかどうか。<b>桜美林大</b>や<b>ICU</b>、文理融合の学びに取り組む<b>青山学院大</b>には期待している。</p>	<p>注目する指標は教育充実度。<b>筑波大</b>などは、大規模大学でもきめ細やかな教育、伝統だけでなく革新もある大学だという話をよく聞く。オープンな教育デザインかどうかを今後確かめたい。国際性は、混在の有無や、留学生向けにその地域、その大学ならではのローカルな学びがあるかといった指標項目の必要性も感じる。専門の学問はネットでも可能な時代。その大学でしか学べないことがないと、日本の大学は選ばれなくなってしまう。デジタルで置き換えられない教育があるという魅力があれば留学生からも、日本の高校生からも選ばれるのでは。</p>
<p>東京都・都立 <b>第五商業高校</b> 主幹教諭 下村恵子先生</p>	<p>高校における新学習指導要領に基づく学びの質の転換に対応して、大学での学びも新しいものとなることが不可欠だ。例えば、<b>少人数のゼミ活動がアクティブ・ラーニング</b>になっていたり、<b>評価基準をルーブリックで示し学びの過程を明確化</b>していたりすると、学生の満足度向上につながるのではないかと。また、近年、手厚く指導されることを当たり前と考える生徒が多くなっている。学習指導や就職活動のサポート体制が整っていることが必要と考える。</p>	<p>「カリキュラム全般が世界的な視野を取り入れている」「幅広い第2外国語の選択科目の設置」「交換留学プログラム等が充実している」「英語による授業や語学系資格を推奨したカリキュラム編成」「海外でのインターンシップの実施」など。第2外国語については、本校のように中国語、韓国語などの、英語以外の外国語教育に力を入れる高校がある。これをきっかけとして、熱心に学ぶ生徒も多い。また、「留学は大学で」と、大学進学と留学を同時に希望する生徒も増えている。個人面談等では、大学進学に対する動機付けとして、留学を「体験」できる機会を生徒に示している。</p>	<p>本校は商業高校であり、<b>在学時に簿記や情報処理等の多くの資格を取得している。これらの資格の上位級取得を推奨するカリキュラムがあったり、商業・経済系の研究所に進むプログラムが充実</b>していたりすると魅力的に感じ、勧めやすい。また、生徒たちが、将来像を描きやすいよう、卒業後の進路が明確であることも重視している。さらに、ただどんな特徴や取り組みであれ、それらが高校教員、保護者、生徒に伝わりやすいことが、大学を勧めやすいことにもつながる。</p>	<p>総合100位以内の大学に注目すると、<b>東北大</b>は、論文や各種受賞のニュースが豊富であり、その研究結果とともに、HP等で大学を知ること、生徒の大学選びのきっかけとなるのでは。日常的な社会貢献への取り組みも注目しており、地域への視野がある大学は今後の成長を感じる。また<b>中央大</b>は、本校からも進学した卒業生からの話もあり、大学での取り組みがよく伝わってくる。<b>桜美林大</b>も人気で、入学時から卒業まで、その後のキャリア形成まで手厚い指導があるところが安心。<b>駒澤大、東洋大</b>も同様のイメージが教員間で根強い。</p>
<p>秋田県・県立 <b>秋田南高校</b> 進路指導部教諭 中村 東先生</p>	<p>実際に大学入学した卒業生から、<b>どれくらい充実した大学生活を送っているかを聞き取っている</b>。私は高校卒業後も交流が続く卒業生が多く、SNS等を通じて大学入学後にどんな活動をしているか、どこに留学しているかも伝わってくる。また、<b>大学卒業時の就職活動についても聞き取り</b>をしており、「<b>出口</b>」を保証できる大学はどこなのか情報を得て、1つの判断材料にしている。</p>	<p>海外留学など、国際交流の機会がどれくらいあるかを見ている。ほかにはカリキュラムや学内で交流できる<b>海外留学生の人数</b>など。それに加えて、卒業後の就職先も確認するようにしている。</p>	<p>本校生徒は持っている能力は高いが、現状で届く目標を設定しがちである。そのため、<b>東京大</b>や<b>東北大</b>といった高い目標への挑戦を勧め、これらの難関と言われる大学をめざすことで自己の能力の向上や成長を促している。また、本校の教育から接続しやすいのは<b>国際教養大</b>。SGHや探究活動などを通して、本校が育てたいグローバルリーダー像と、国際教養大が求めている生徒像や、育てたい学生像に共通点があると感じている。地元で大学であるために学生との交流や、イングリッシュ・レレッジなどのイベントへの参加を通して大学の様子を知る機会があり、生徒が直接大学の雰囲気を知って大学選択ができるため、生徒が志望する傾向にある。</p>	<p>今回、総合1位になった<b>東北大</b>に関しては、昨今の難化傾向から、評価が高まっているのは理解できるが、東北地区の生徒にとってはほとんど手の届きにくい大学になってしまっている印象がある。また、<b>東京工業大</b>は総合で同ランクの大学と比べ、<b>理系大学にもかかわらず国際性の評価が高い</b>のが驚きだった。本校では志望者の少ない大学だが、あらためて注目したい。</p>

### 大学選びを左右する 高校教育の質的転換

上の表は本ランキングに関心を寄せる高校教員の声をまとめたもの。「高校の教育や進路指導はどのくらい」といったイメージを覆すこれらの声の背景には、高校教育の質的転換がある。今、多くの高校が<sup>\*1</sup>新指導要領を軸に、探究学習など新しい教育に取り組んでいる。それらは従来の偏重重視の進路指導に大きな影響を与えつつある。「探究学習を突き詰める」と、自ずと進路は一人ひとり異なってくる。教員も国内外問わずさまざまな大学について調べ、<sup>\*2</sup>THEランキングなども活用しながらやっている」と語るのは、少子化が進む鳥取で21世紀型の教育に挑む青翔開智中高校の織田澤博校長。同校は、探究学習を通じて大学でやりたいことが明確になり、それをアピールできる武器ができるため、8割がAO・推薦入試で受験する。「これからは進路でも生活でも自分の中にリーダーを見出し、自分で自分を指導していく時代。われわれ教員は生徒を指導ではなく、サポートする立場」という考えから、進路指導を「進路支援」という言葉に変えたと<sup>\*3</sup>言う。また、競争の激しい東京の私立中高一貫校で一躍名をはせた三田国際学園中高校の城野教諭は、「多くの大学がPRするアクティブラーニングやリベラルアーツなどは、あくまで教育手段。それよりもオープンイノベーションが起きるような環境デザインがあるか教育力は見ていきたい」と指摘する。大学よりも先に少子化の影響を大きく受けている高校。教育改革に挑み生徒募集を好転させた私立校の意見は、多くの中堅私立大学が耳を傾けるべきだろう。

一方、マーケットが圧倒的に大きい公立校では今、普通科の特色化が議論されている。社会の変化や地域の実情をふまえたスクールミッションの再定義や、大学と同様、独自の教育目標、育てたい人材像を掲げて、その実現をめざすカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。これが進むと、自校で培った能力を、大学でより伸ばしてほしいと考えるのは当然だ。高校における教育の特色化が進むほど、高校教員は大学の教育をより深い視点で見ようになるはずだ。大学は「自学の教育がめざすもの」「それに向けた具体的な教育の取り組み」「エビデンスに基づいた教育成果」を積極的に発信することが、意欲の高い入学者を増やすカギになるだろう。

<sup>\*1</sup> 2022年度より年次進行で実施  
<sup>\*2</sup> 本記事タイトルの下の写真は、青翔開智中学校・高校の進路支援で実際に使っている日本版のポスター。合格実績のある大学にはマーカーで印をつけている  
<sup>\*3</sup> ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業。複数の高校、国内外の大学、企業等が協働してグローバルな社会課題研究プログラムを実施